

下川富士子



概要

氏 名 下川富士子 (しもかわ ふじこ)

職 業 刺し子研究家

高瀬しぼり木綿研究会会長

住 所 玉名市滑石 278

主な活動地 玉名市

(生活文化活動部門)

下川富士子氏は、我が国独特の伝統工芸である「刺し子」(綿布を捕強するため、一針ずつ糸目を作り、細かく縫い施す手法、また、この縫い方で作る衣類)の伝承・普及に取り組み、その活動は四十一年に及び。

昭和五十六年から毎年、県伝統工芸館、県立美術館、NHK熊本ギャラリー、玉名市立歴史博物館、不知火町立美術館などで作品展を開催するなど、伝統文化の普及発展に多大な貢献をしている。平成七年にオーストリア、平成十年にカナダでの海外作品展も実施した。

また、玉名市、荒尾市、熊本市などで刺し子教室を開催し、後継者育成にも力を入れるとともに、「刺し子作品集」を出版して全国の図書館に寄贈した。

特に、肥後の特産品として江戸時代初期に広まり戦後消滅した地元の特産品として江戸時代初期に広まり戦後消滅した地元の特産品「高瀬しほり木綿」の復興に熱意を持って取り組み、「高瀬しほり木綿研

究会」を設立して保存継承に尽力している。「高瀬しほり木綿」は、ハシカチやテプルの数物、インテリアにもなり、同じものは二つとない

ので県外の人に喜ばれることから、くまもと未来団体では選手へ記念品として贈られた。現在では小中学校で「高瀬しほり木綿」作り活動が広がるなど、伝統工芸の継承、地域文化の振興に貢献している。

なお、昨年秋季に荒尾・玉名地域で開催された県民文化祭の主催事業である「小さな美術館めぐり」の一環として、「刺し子展」及び「高瀬しほり木綿展」を開催し好評を得た。

多年にわたり衣文化の原点である「刺し子」及び「高瀬しほり木綿」の普及・継承に尽力し、後継者の育成にも取り組みなど、その功績は顕著であり、今後ますますの活躍が期待される。

これまでの活動歴

昭和三十六年	(一九六二年)	結婚後、夫の転勤に伴い全国を回る。洋裁、和裁、編み物、手芸全般の免許取得。特に刺し子の魅力にひかれ研究に力を注ぐ。
昭和五十六年	(一九八二年)	この年から毎年刺し子作品展を開催
平成二年	(一九九〇年)	しらぬひ刺し子研究会設立。合同作品展を開催
平成三年	(一九九一年)	しらぬひ刺し子研究会合同作品展を開催
平成四年	(一九九二年)	県伝統工芸館にて個展を開催
平成五年	(一九九三年)	NHK熊本ギャラリー、県伝統工芸館にて個展を開催
平成六年	(一九九四年)	福岡博多井筒屋にて個展を開催、県伝統工芸館にて合同作品展を開催
平成七年	(一九九五年)	高瀬しほり木綿研究会設立、以後県内にて活動
平成八年	(一九九六年)	都都良会全国総合美術展にて通産大臣賞受賞 県立美術館分館にてしらぬひ刺し子研究会合同作品展を開催、 沖縄県那覇市ギャラリーにて個展を開催
平成九年	(一九九七年)	大分県天領日田資料館、千葉県四街道市ギャラリー、 沖縄県浦添市立美術館にて個展を開催
平成十年	(一九九八年)	カナダ・バンクイパー、沖縄小椋ギャラリー、県立美術館分館等にて個展を開催
平成十一年	(一九九九年)	都都良会全国総合美術展にて京都市長賞受賞 て師弟展を開催 沖縄県那覇市ギャラリー、県立美術館、県伝統工芸館にて 美術展入選
平成十二年	(二〇〇〇年)	不知火町立美術館、玉名市立歴史博物館、ギャラリー蔵等 にて個展を開催
平成十三年	(二〇〇一年)	大阪府寝屋川市ギャラリー、熊本市湖東カレッジ等にて 個展を開催
平成三十六年	(二〇〇二年)	フランス・パリにて国際服飾学会刺し子作品展示